

乳幼児保育の手引き 「あそぼ」



施設種のちがいや規模のちがいなど園の事情はさまざまあれど、保育者は皆、子どもたちの健やかな成長を願っています。この手引きには、乳児保育においておさえないこと…子どもの発達の特徴や環境を整える際のヒントなど、保育のエッセンスを掲載しました。ぜひ、保育の参考にしてください。

「せんせい、あそぼ！」って、子どもたちのかわいい声が聞こえてくる資料です。

【この手引きの使い方】

- 年齢ごとの記載になっていますが、子どもそれぞれに発達の凸凹はあります。その前後の頁にも目を通し、子どもの発達の流れを把握しましょう。
- 文中の**ゴシック太字**は、保育の専門家として理解しておくべき用語です。『保育所保育指針解説(平成30年3月)』等でさらに詳細を読み解き、学びを深めていただくことを願っています。
- 「3 こんな環境を整えましょう」では、手作りおもちゃの例も掲載しました。簡単に手に入る材料で作ることのできるおもちゃです。ぜひ挑戦してみてください。

【目次】

- I. 0歳前半のころ
- II. 0歳後半のころ
- III. 1歳のころ
- IV. 2歳のころ

【資料】おさんぽマップ



静岡県幼児教育センター(静岡県教育委員会義務教育課)

監修 岡村由紀子(あおぞらキナーダーガーデン・平島幼稚園 園長)・金子明子(常葉短大非常勤講師・公認心理師)

1. 0歳前半のころ

泣くことから始まる、自己肯定感の育ち

1 子どもの発達について知ましょう

● 大好きな人の声が聴きたい、顔が見たい

見たいからこそ、左右どちらかを向いていた顔を、真ん中に向けます。首がすわるのも、仰向けから寝返りしてうつぶせになるのも、反射や重力によって仰向けでいる状態から「大好きな人の顔を見たい」という気持ちが膨らんでこそ、獲得していく“自由”です。

● 「これはなんだ～？」最初のおもちゃは自分の手！

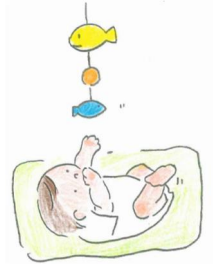
自分の手をじっと見ます。その手を口に持って行って、なめたりしゃぶったりします。いわば、“おもちゃ”です。同じように仰向けで足が上がると、足をつかみます。

● 「あれはなんだ～？」さわりたい気持ちが溢れます

“いいもの”を見つけると、それをさわりたいから手を動かします。何とかしてさわりたいと手をもじもじしている姿は、周囲への**興味や関心**のあらわれです。

● あ、笑ってる！？

最初のころは**生理的微笑**と言って、あやされて笑ったわけではない笑顔です。あやされて笑うようになるのは、3～4か月くらいです。



2 こんな指導を心掛けましょう

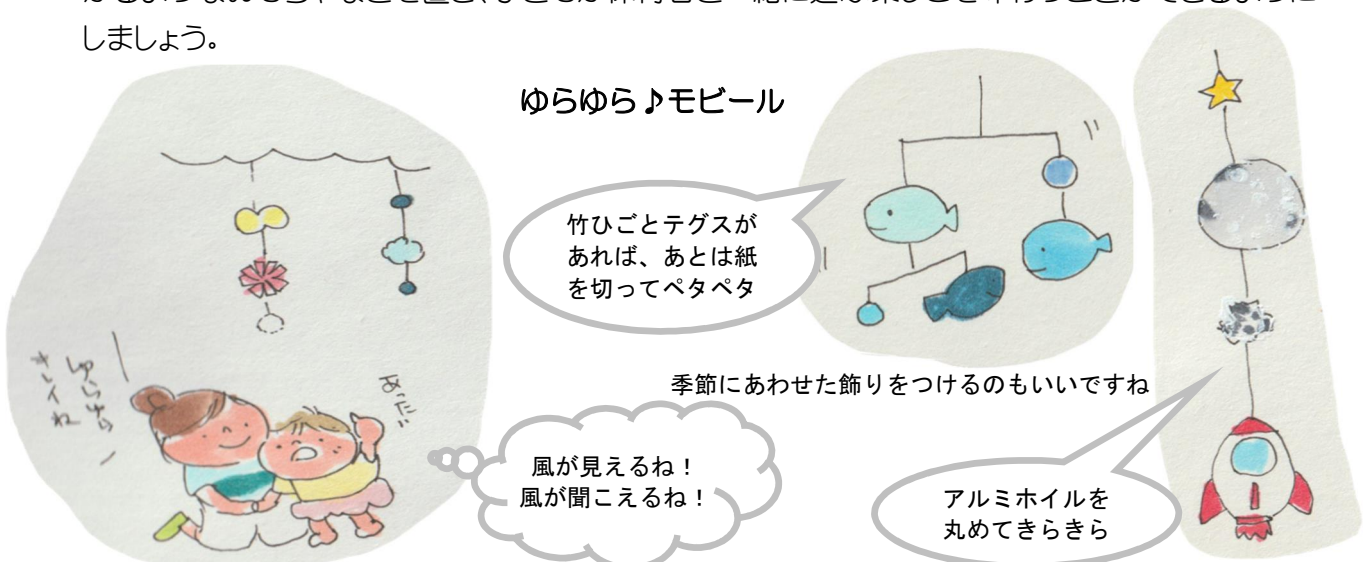


● 泣くことは子どもの全ての思いや欲求の表現であることを理解し、放っておかず、かわりましょう。その時、子どもが泣いている意味を考え、「おなかが空いたのかな」「抱っこしてほしいのかな」など、子どもの心に**共感**する言葉を掛けましょう。この繰り返しの中で、子どもは、「泣いてもいいんだ」という**安心感**とともに**自己肯定感**の基盤が育んでいきます。

● 保育者は、穏やかな声で、ゆっくりと話し掛けましょう。ていねいに子どもの目を見て、温かくかわりましょう。

3 こんな環境を創りましょう

● 子どもが眠る時は、静かな環境を整えます。子どもが起きている時は、子どもの**興味や関心**が広がるようなおもちゃなどを置き、子どもが保育者と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができるようにしましょう。



11. 0歳後半のころ

“いたずら”は小さな科学者。いたずらができる環境を。

1 子どもの発達について知ましょう

● 自ら動く、視界も変わる

はいはいからつかまり立ちへ、横の移動から縦の移動へと変わっていきます。

● 見えない世界へのあこがれ

「いないいないばあ」が楽しいのは、**記憶や表象機能**が獲得され、“見えないけどそこにある”が分かるからです。これは、**ことばの獲得**につながる力です。

● 子どもが自らかかわる

見つけたものに視線を注ぎ、「あっあっ」などの**喃語**と共に**指差し**をします。欲しいものや行きたいところがあると、自分から指差しをして思いを伝えます。

● 人見知りと場所見知り

慣れない人や慣れない場所に対する不安な気持ちを、大好きな保育者に支えられることで乗り越えます。不安だけど興味がある…**人見知り**や**場所見知り**と言われる姿です。



2 こんな指導を心掛けましょう

● 移動範囲が広がり、新しい世界の入口で不安がいっぱいなのが**人見知り**です。「びっくりしたね」「ここにいるよ、大丈夫だよ」など、子どもの気持ちを受け止めて**共感**しましょう。そうすると、子どもにも**安心感**が生まれ、**意欲的**になれます。

● 子どもは**意欲的**になると、伝えたいことも増え、たくさんのことば（**喃語**、泣き声・表情・**指差し**など）が生まれます。保育者は、子どもが自分の気持ちを伝えたい相手に選んでくれたことを喜び、「おいしかったね」「ワンワンいたねえ」などとたくさんお話ししましょう。

3 こんな環境を創りましょう

● 寝返り、はいはい、つかまり立ちが十分にできるよう、安全なスペースを作りましょう。

● 園の外にも子どもの**興味・関心**をひく環境が多くあります。近隣の公園や店舗などを調べ、お散歩マップを作りましょう。（資料・おさんぽマップ 参照）

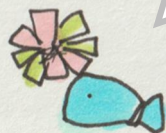
● 手先が豊かに発達する環境（おもちゃや水・砂遊びなど）を工夫するとともに、食事場面では、**意欲的**に食べる“手づかみ”も大事にしましょう。

● 人とのやりとりを楽しむ時期です。いないいないばあ遊びやまねっこ遊びなどをして、保育者が遊びの楽しさを伝えていきましょう。



レジャーシートの上に水たまりを作って、そこでパチャパチャ！

スポンジを輪ゴムでとめて、おさかなやポンポンボールが作れるよ。



粉ミルクの空き缶をビニルテープなどでふちどりませす。積み木やポンポンなどをここにいたり、出したり。

百均のタッパー上部に穴をあければ、こんなおもちゃに。



Ⅲ. 1歳のころ

「いやいや!」「しぶんで!」が大切。
大事にされたからこそわかる、“自分の心”。

1 子どもの発達について知ましょう

● 自分で歩く

徐々に歩行へと移行します。だんだんと、緩やかな斜面や階段の昇り降りなどに挑戦したり、15cm くらいの高さから飛び降りたりすることも楽しむようになります。

● ことばの獲得

大人に視線を合わせ、**指差し**で自分の思いを伝えようとし、さらに単語程度のことばも発するようになります。また、積み木を電車に見立てるなどの**見立て遊び**が見られるようになります。そこにはないものを別の何かに置き換えること（**象徴機能**）は、ことばの獲得にとって大事な力です。

● 生活の中で見通しを持つ

“楽しいお散歩”に行くと分かったら、それぞれに靴や帽子を持ってきます。これも**象徴機能**の一つです。その繰り返しの中で、自分で靴を履こうとする意欲も育ちます。

● 自分のことは自分で

自分でパンツや靴を履こうとする姿が見られ、少しでも大人が手伝うと最初からやり直すほど、「自分でやり終えたい」という思い（**自我**）が出てきます。



2 こんな指導を心掛けましょう

● 自分の中に育った力を確かめてみたい心の表れが、**探索活動**です。大人からすると「危ないからだめだよ」と否定的なことばを発しがちですが、それよりも、ここなら大丈夫という環境を作り、「すごいね」「やったね」と言える指導をすると、子どもに「失敗しても、もう1回!」という意欲が育っていきます。

● 歩行が確立していく時です。体と手先を十分動かす楽しい遊びや、やりとりを楽しむ遊び（まてまて・見立て・わらべうたなど）を十分に経験させましょう。

● 子どもは、楽しい遊びや大好きな人がいることで、おしゃべりになります。子どもの発する言語には、喜怒哀楽の表現や指差し・行動などの意思も含まれていることを理解し、その時その時の子どもの心にぴったりの言葉を送りましょう。これは、学童期に向けて、自分の思いや考えを表現する力につながる指導です。

百均のクリアボトルとペットボトルのふたで。ふたを2つ組み合わせて、中に鈴を入れるのも楽しいですね。



3 こんな環境を創りましょう

● 机の上に乗る、ティッシュを引っ張り出すなど、大人にとって困ったと思えるような姿の中に、子どもの発達が見えます。やりたい思いを実現できるおもちゃや室内環境を工夫したり、お散歩コースを開拓したりしましょう。

（資料・おさんぽマップ 参照）

● 「自分で!」の世界が充実するよう、子どもが夢中で遊んでいる時は、一人で遊ぶ環境も大切にしましょう。

「ここに入れば下から出てくる」という見通しをもって遊ぶようになります。

タッパーの穴の形を変えて。これなら、薄いものを“つまむ”経験になります。



IV. 2歳のころ

ますます強くなる“自分の心”。
けんかは、相手の気持ちを知るチャンスです。

1 子どもの発達について知ましょう

● 「あのね、あのね」

今日あった出来事をお話するようになります。構音が未完成なため、言い間違いや吃りなどありますが、正しく話すことよりも「お話したい」という気持ちが大切です。

● “見立て”と“つもり”の世界

例えば、タオルをしっぽに見立ててネズミになります。目の前にないものを別のもので代用して遊ぶということは、**象徴機能**が発達している証です。『つもりの世界』は、ごっこ遊びだけではなく、「〇〇してから△△する」と自分なりに決めている「つもり」もあります。自分の「つもり」を実現させたいがために、他児の「つもり」とぶつかることがあります。

● くらべっこ

「大きいー小さい」や「きれいー汚い」など対比的なとらえ方（**対比的認識**）をするようになったり、「どんぐりいっぱい」や「お父さんは大きいね」といった形容詞や形容動詞などがお話の中に出てくるようになっていきます。



2 こんな指導を心掛けましょう

● **生活の自立**がほとんど確立します。それは、自分の体の変化に気づく営みです。「おなかいっぱいかな?」「おしっこ出るかな?」「寒いかな?」など、その時の子どもの体の状況にぴったりのことばをかけてもらうことで、子どもは『行動の主人公』に育っていきます。

● 散歩や外遊びでの**全身運動**や**手先を動かす遊び**（水・砂・泥・粘土・折り紙など）を意図的に取り入れましょう。

（資料・おさんぽマップ 参照）

● 「一緒に楽しい」の心が膨らむときです。大人が**仲立ち**になり、楽しい遊びを子どもと一緒に創りましょう。

● 大人との**見立て**や**つもり**が豊かに育っていきます。保育者も『嘘っこの世界』を楽しむことが大切です。魚に見立てたスポンジを口にいたら「あ！だめ、きたない！」よりも、「まだ生ですよ。おなかが痛くなりますよ」です。

● **自我が育ち**、喧嘩や叩く、噛むなどの行動が増えますが、子どもの行動には必ず意味があります。どんな姿にも**共感**し、子どもの行動の意味にぴったりのことばを伝えましょう。その繰り返しの中で、子どもには**安心感**と**信頼感**が育ち、ことばでのやり取りができるようになっていきます。



3 こんな環境を創りましょう



● ごっこ遊びのコーナーには、ごっこの素材を置きます。**見立てる力**の食い違いからくるトラブルを避けるためにも、見立てがはっきりするもの（例：ままごとコーナーのプリン・ケーキ・バナナなど）を選びましょう。

0.1.2 おさんぼマップ

みんなが出発します！



キンコンなるかな？



でここぼこぼこ！



むしさんどこいくの？



あーい！



ちいさいやぎになって
かたことかたこと
たにがわのぼしをわたります。



スズメさん！！

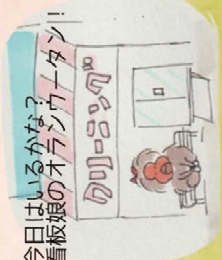


鳩マンション！



ほんとに
鳩のおうちなのかも？！

今日はいるかな？
看板娘のオランウータン！！



マンホールのケーキ！



ちっちゃな花畑



こんこんのこ
よんよん



神社の石段

手裏剣はっば！
まきのはっばで
しゅりけんつくる！



みぞもあるいちゃう！

じやりじやり砂利道



おおきなみずたまり
ができるよ



ぞうぞうぞうぞう

OKU



富國有徳の美しい「ふじのくに」



静岡県

Shizuoka Prefecture